

会議録要旨

会議の名称	令和7年度第2回 霧島市水道事業及び簡易水道事業並びに工業用水道事業運営委員会
開催日時	令和7年9月25日（木曜日）13時30分から
開催場所	隼人市民サービスセンター2階会議室
出席委員数	8名（10名中）
事務局	川畑上下水道総務課長、蔵原上下水道総務課主幹、前田上下水道総務課主任主事、佐々木上下水道総務課主任主事、深水水道工務主幹、岩元水道工務課主幹
次第	1 開会 2 議事 （1） 会議録（8月19日開催分）の承認 （2） 水道事業の概要 （水道の役割、霧島市新水道ビジョン、独立採算制） （3） 本市の水道施設 （概要、紹介(写真)、今後の課題） （4） 今後の流れ （運営委員会の役割、今後の経営の見通し） 3 その他 4 現地視察（公用車） （出発）～台明寺配水池～（仮称）宇都良配水池築造現場～（帰庁） 5 閉会
会議の経過	（1）会議録（8月19日開催分）は全会一致で承認された。 （2）水道事業の概要～（4）今後の流れを事務局から説明。 主な質疑・意見については以下のとおり。 （質疑）霧島市には1つの水道事業と6つの簡易水道事業があり、合計7事業が存在する。これらはすべて総括原価方式で運営されている理解でよいか。 （回答）その通り。すべて同じ料金体系で運営している。 （質疑）経営的には一本化しているのに、6つの簡易水道事業が統合されていない理由は何か。法律上の制約があるのか。 （回答）統合には認可上の手続きが必要で、実体としては現在も一体で運営している。 （質疑）更新や将来の投資を考える際、特定地域が全体の原価

	を押し上げることはないという理解でよいか。スケールメリットで運営されるのか。 (回答) 面積が広く人口が少ない地区は必然的に原価が高くなる。人口減少を踏まえてダウンサイジングなどの工夫を行う。人口集中地区については長期的に利用できる耐震化施設を整備するなど、地域特性に応じた対応を行う。 (質疑) 水源量は十分確保されている認識でよいか。 (回答) 地域ごとに湧水量の違いはあるが、現在の使用量に関しては問題ない。 (質疑) 国庫補助事業の活用について、霧島市はこれまで採択基準の問題で活用できていなかった。今後の活用見込みはどうか。 (回答) 現時点では補助要件を満たさず採択が難しい状況。全国市長会を通じて要望を提出しており、県からも事例を学んでいる。今後は補助金を得られるよう粘り強く取り組む。 (質疑) 濁度の法令基準についても説明願いたい。 (回答) 「2 度以下」とされており、毎月検査し基準を超えないよう監視している。 (質疑) 水道法では市町村が経営主体とされるが、近年「民営化」が話題となっている。外資が運営に入る例もあるようだが、霧島市での民営化とはどのようなものか。 (回答) 国は PPP・PFI の導入を促している。水道は公共サービスであり、地域住民の意識からも市町村主体が望ましい。霧島市では一部業務を委託しており、今後も民間委託でコスト削減を図る。 (質疑) 資料に「包括的民間委託」とあるが、これは施設更新なども含めて全面的に委託する仕組みか。 (回答) 指定管理者制度は公園などで管理業務を委託するものだが、包括的管理では施設更新も含めて委託する場合がある。修繕や更新まで対象にするケースも考えられる。 (質疑) 工業用水道事業は令和 10 年度に統合されると聞いたが、現時点の計画状況やシミュレーションはどうなっているか。 (回答) 現行の財政計画にはまだ反映されていない。現在は設
--	---

	備更新費用や水需要の調査を進めており、一般会計からの繰入れも含めて計画を検討中である。 (質疑) 水道料金は低廉な水供給を目的とすると説明があったが、持続的経営も考慮した上で料金体系を決めるということか。 (回答) 水道料金は持続可能な経営が前提である。耐震化などの課題に対応しつつ、新たな収入確保や支出削減を行い、それでも不足する分を料金でまかなうことが適切である。 (質疑) 資本的支出は設備更新と理解しているが、資本的収入は何を指すのか。 (回答) 主に企業債、すなわち国や金融機関からの借入金である。 (質疑) 職員給与や設備投資の単価、電気代の上昇など、試算には前提条件が必要である。次回以降提示してほしい。 (回答) 承知した。できる限り詳細な前提条件を示すよう努める。 (質疑) 電気代などの製造経費はどの項目に含まれるのか。 (回答) 「その他」に分類されており、電気代や修繕費が含まれる。詳細資料を今後提示する。 (意見) パブリックコメントには料金改定に関する意見も寄せられているため、委員の皆様には一度ご確認いただきたい。 (意見) 専門用語が多く出てくるため、用語解説などがあれば理解しやすい。 現地視察中の主な質疑は以下のとおり。 台明寺配水池 (質疑) 貯水時の内圧にはコンクリート強度のみで耐えているのか。 (回答) プレストレストコンクリート (PC) 構造となっている。これは PC 鋼材を引っ張り緊張させたうえでコンクリートと固定し、躯体に強度を持たせる構造である。
--	--

	(質疑) PC タンクが地震等で崩壊した事例はあるか。 (回答) 全国的に崩壊例は聞かないが、コンクリートのため割れは生じ得る。 (仮称) 宇都良配水池築造現場 (質疑) 7,000 トンの重量に耐える基礎は相当なものでは。 (回答) 基礎コンクリートは厚さ 1.05m、鉄筋を密に配筋。直径 80cm の杭を 93 本打設。 (質疑) 杭の深さは。 (回答) 長さ 10～17m の杭を打設し、上部 2m を切断して鉄筋を基礎に繋ぎこんでいる。 (質疑) 耐震性能は。 (回答) 震度 7 クラスの地震に 2 回耐えうる設計。タンクは基礎に固定せず、舗装面との摩擦で保持。 (質疑) 台明寺配水池は今後どうするか。 (回答) 当面 1 年間は残置。土地は新設する配水池が老朽化したときの代替用地として残しておきたい。 (質疑) 耐用年数は。 (回答) 法定 60 年。運用次第で 100 年程度の利用も可能。ステンレスは腐食がない。
写真	